

令和6年度 中央区立有馬小学校における重点目標

中央区立有馬小学校 住所 中央区日本橋蛸殻町2-10-23

校長 小林 一輝

児童数 691名 学級数 23 教員数 40名 職員数 30名

教育目標

- 自ら学ぶ子
- 思いやりのある子
- 心とからだの健康な子

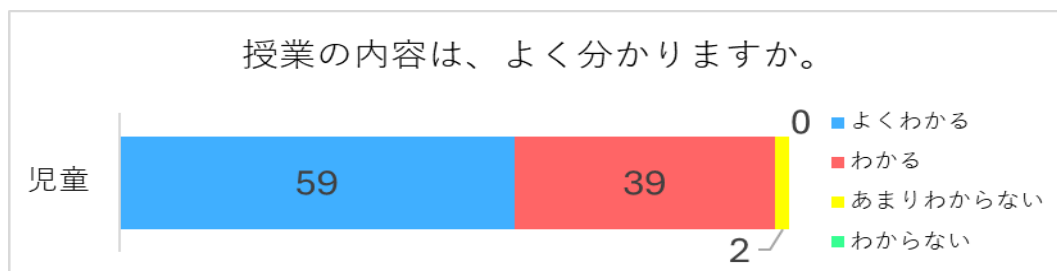
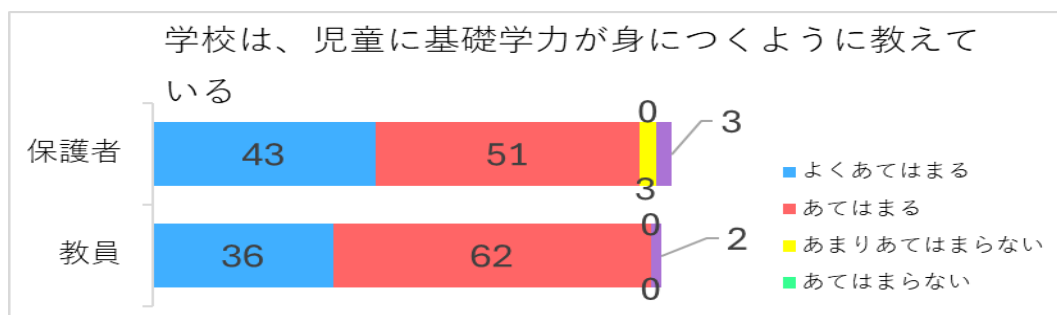
重点目標1

「わかった」「楽しい」を基本とし、高い学習意欲をもち自ら探究する児童を育成する。

- 評価項目：①「考えること」「話すこと」「聞いてもらえること」の楽しさを感じられる場面を意図的に増やした授業を構築する。
- ②少人数指導やステップアップ教室の実施などにより、算数科教育を充実させる。
- ③教員の教科の専門性を意識した「交換授業（高学年）」を計画・実施する。

- 評価指標：①各種学力調査の質問紙調査、管理職による受業参観（年2回）、OJTによる授業公開
- ②計画的な算数少人数指導の実施。ステップアップ教室を、年間30回以上実施する。
- ③児童アンケートで「授業の内容は、よく分かりますか」という項目の肯定的な回答を90%以上にする。

- 達成状況：①については、全教員が学習指導案を作成し、7月と12月に授業公開を実施した。管理職からの指導に加えて、授業参観を行う教員の姿が多く見られた。また、計画的にOJTを実施し、読書指導、児童への対応等、全体研修とグループ研修を行った。
- ②については、算数少人数担当が中心となり、習熟度別学習を行ってきた。学習内容の確実な定着のために、補習「ステップアップ教室」を23回実施した。基礎的・基本的な技能の定着に定着を図ることができた。
- ③については、約97%の児童が「授業が分かる、楽しい」と回答している。本年度は校内研究で人権教育について取り組むなかで、「学び合い」に重点を置いて研究を行ってきた。また、高学年で交換授業を実施することで、成果があったと考える。今後も基礎学力の確実な定着を目指し、学校全体で取り組んでいく。



重点目標 2

「自分だけでなく、みんなが楽しい」を基本とし、人のために考えて行動できることのできる児童を育成する。

評価項目：①保幼小連携や有馬エンジョイタイムなどの交流活動の充実を通して、全教員が活動ありきで無く、「活動中の心情や行動のふりかえり・次への行動目標を立てること」に重点を置き、児童の成長につなげる。

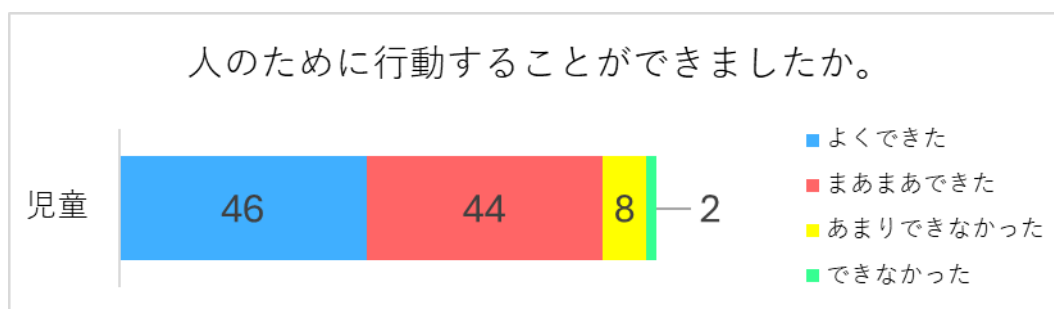
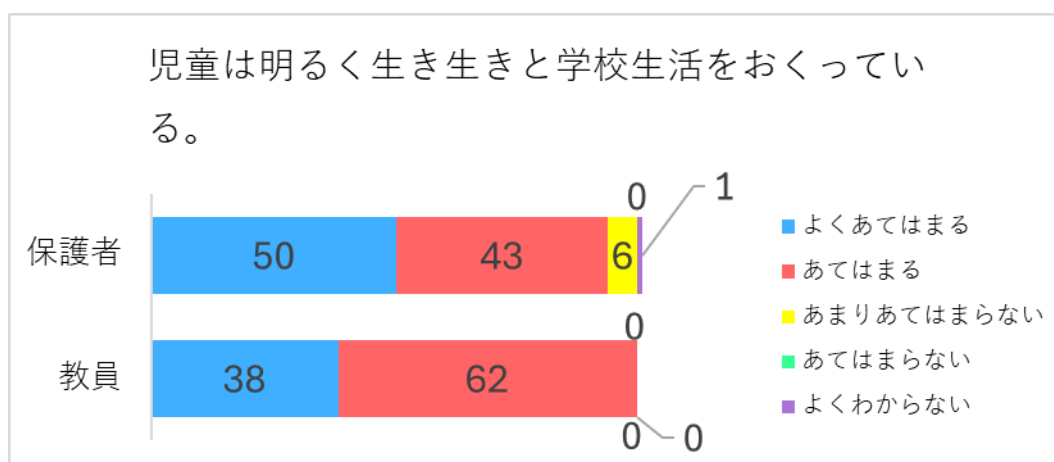
②他の人が喜んでくれることを自分の喜びとすることができる場面の意図的な設定を行う。

評価指標：①保護者アンケートで「児童は、明るく生き生きと学校生活を送っている」という項目の肯定的な回答を90%以上にする。

②児童アンケートで「人のために行動することができましたか」という肯定的な回答を90%以上にする。

達成状況：①については、保幼小連携で、本校で授業を2回観ていただいた。また、有馬エンジョイタイムの縦割り班活動では、異学年交流を活発に行うことができた。その結果、94%の児童から肯定的な回答を得ることができた。

②については、約90%の児童が人のために行動ができたと答えている。全校朝会での校長講話「やさしい人がいちばんえらい人」「いじめは絶対に許さない」等を繰り返し伝え続けてきたことで、友だちを大切に、人のために行動する意識が定着してきたと考える。今年度の人権教育の充実からも、自分も友だちも大切にする意識が培われている。朝のあいさつ運動では、当番でなくともボランティアでみんなのために挨拶するなど積極的な姿勢が見られる。



重点目標 3

規則正しい生活習慣を身につけ、心身の成長、発達につながる体力を向上させる。

評価項目：①遅刻の回数が多い場合には保護者に伝達し改善について考えてもらうなど、規則正しい生活習慣を学校と家庭が連携して取り組んでいくようにする。

②「生涯スポーツ」という言葉の通り、日常的に身体を動かし、自分自身の体力向上に取り組んでいく児童を育成する。

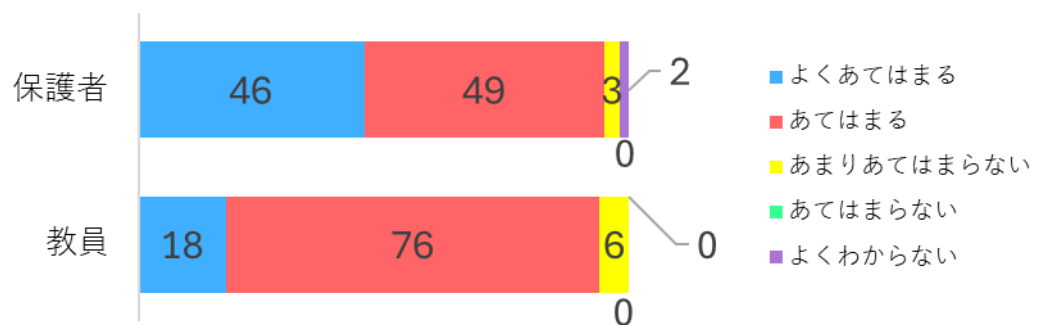
評価指標：①保護者アンケートで「児童の健康・体力の増進に努めている」という項目の肯定的な回答を90%以上にする。

②児童にアンケートで「自分から体を動かして遊んだり、運動したりしていますか」という項目の肯定的な回答を90%以上にする。

達成状況：①については、約95%の保護者が肯定的な回答をしている。「ありまんピック（運動会）」や「ARIMA RUN（持久走大会）」を公開し、児童が練習の成果を発揮する姿、全力で取り組む姿を見てもらうことができた。

②については、児童の約91%の児童が肯定的な回答であった。校庭で「ARIMA RUN」に取り組むなど、積極的な姿が見られたが、室内で過ごす児童も一定数見られ、二極化が見られた。次年度はなわとびについても休み時間に積極的に取り組めるよう、指導を工夫していく。

学校は児童の健康・体力の増進に努めている。



自分から体を動かして遊んだり運動したりしていますか。



